

ウィズ ～ともに～

# WITH



## おれんじ村

発行：社会福祉法人 くまもと障害者労働センター 〒861-8039 熊本市東区長嶺南 1-5-40  
TEL: 096-382-0861 FAX: 096-285-7755 <http://1985orange.com>

# マイバリーを売る訳

# トイレット

# おれんじ村の 原点



1985年の4月にホープ印刷に採用を断られた障害当事者…  
どうしても仕事したい。給料を稼ぎたい。と諦めなかった  
障害者3名がホープ印刷の一角を借り、  
くまもと「障害者」労働センター(通称おれんじ村)ができました。



～**思いと裏腹に、仕事が無い…**～

おれんじ村が出来た当初は、思いと裏腹に仕事が無い状況でした。ホープ印刷の提案で水俣の無農薬の甘夏や、粉石けんなどを仕入れて販売をしようとなりました。しかし、どこで販売したらよいかもわからず、運ぶ車もなかったので、ホープ印刷の営業と一緒に外に出て、途中で車から降りてもらい販売を始めました。

それでもなかなか売り上げが伸びず、その後ホープ印刷が保田窪から龍田に移転してしまいました。残された労働センターには、その後もセンターの存在を知り、「施設を出て地域で暮らしたい。」という思いを持った重度障害者が何人も集まってきました。

今とは違ってヘルパーの制度もあんまりなかったの

で、センターでは仕事だけでなく、入浴介助、食事介助など、ボランティアさんや障害当事者がお互いに助け合いながら行っていました。そのため、センターで働く障害者の賃金はほんのわずかしかなかった。 (それどころか、赤字になると、自分たちのお金を出し合ったり、寄付を募って何とかしのいでいました。)

それでも、「働いて収入を得たい。」「働いて得た収入で地域で暮らしたい。」との思いがグリーンコープさん、田中商店さんたちとの出会いへとつながりました。グリーンコープさんはエコ活動に積極的に取り組まれており、エコ活動と障害者の就労を一緒にできないかということで、牛乳パックの整理作業という仕事を労働センターが請け負うことになりました。

## ～やっと給料が1万円に～

最初の頃は、グリーンコープの人に手伝ってもらって、大量に運び込まれた牛乳パックを整理し、開いてない牛乳パックを一つ一つ手で開く作業と、汚れているパックを水で洗い落とす作業をしていました。夏は牛乳パックに汚れが付いているので匂いがすごくて鼻がおかしくなりそうでした。回収して仕分けした牛乳パックや古紙は、その後製紙会社にリサイクルの資源として買ってもらい、リサイクルのできたトイレトペーパーを田中商店



初代代表の池田大輔さん

さんを通じて仕入れて商品として販売するようになりました。

その頃、センターには24時間 TVでもらった車が1台あったが運転手さんがいませんでした。一緒に働いてくれる人はお願いをしてもなかなか見つかりませんでした。(給料を払えなかったからです。で

も毎回ボランティアを探すのが大変で、仕事にならないので、お金を払って週1回でも定期的に来てくれる人を探すようになりました。) その後、元産交バスの運転手さんが労働センターで働いてくれることになり、グリーンコープの各センターや熊本生協だけでなく、小・中学校、高校、郵便局、地域コミュニティセンター等を周って牛乳パック・古紙を回収するようになりました。その後、パートや常勤の人が少しずつ増えてきて、「共に働く」おれんじ村になってきました。

パック連という団体も作って、回収だけでなく、工場見学や全国大会に参加したり、学校や24時間 TV等で紙すきをしたり、再生紙のキャンペーンも続けました。リサイクル活動で表彰されたこともあります。仕事を通して外でいろんな人と知り合いになれたのは楽しみのひとつでした。でも、回収を広げていくと、汚物が入っているところも多くなりました。おむつ、レジ袋、紙袋などが混在していて、仕分ける作業も大変でした。仕事が大変な割には、燃料費に莫大なお金をとられ、利益は年間わずかしかなかったからです。

それでも、牛乳パックの回収の仕事を開始して、初めてセンターで働く障害当事者に一律1万円ですが、給料が支払われるようになりました。

### トイレトペーパーを買って



私、ベッカムが働きだしたのは、約20年前で、牛乳パックの回収をメインの仕事としていた頃でした。その頃の

給料は時給150円。それでも、自分で働いて収入を得られたときは、とても嬉しかったし、社会人になったんだと感じました。ちなみに、初給料は貯金しました。なんでかという、いつか先輩たちのように、地域で一人暮らしをすることを目指していたからです。またまたちなみに、ベッカムはその後一人暮らしを始め、10年以上が過ぎました。

私たちセンターにとって、牛乳パックの回収の仕事は大変でしたが、私たちの仕事の原点です。2003年度には、グリーンコープさんが牛乳パックをやめて、びん牛乳になりました。それと同時に労働センターは大きな転換時期となりました。2003年度に社会福祉法人になり、他の仕事も始めたこともあって、2004年度からは回収の売り上げが、前年度から比べ大幅に減少しました。

それからセンターみんなで話し合い、牛乳パックの回収の仕事を辞める決断をしました。そして、下請けではなく、センターの自主製品を増やしていこうとなり、サーターアンタギーを作り始めました。今はいろんなお菓子をつくっています。また、カフェなどの事業も開始し、ゆっくりと事業も広がっていています。(ちなみに私の今の給料は時給380円です。)



注文があり、今から配達に行きます

牛乳パックの回収は、私たちの原点ではありますが、みんなの生活のため(また、行政でのパック回収が始まり、役割を果たした気持ちもあり)辞めるという苦渋の決断をすることになりました。しかし、私たちの原点を忘れないために今でもトイレトペーパーを販売し続けています。今もなお地球に優しい、牛乳パックの再生紙のトイレトペーパーを販売しています。ベッカムも使っています。一番の特長はロールが長くて、紙の質の高さです。本年度の予算の中に入れてください。御注文お待ちしております。

牛乳パックを使った紙に名刺を印刷したり、オリジナルカレンダーなども販売しています。

ベッカムごと高村恭弘

### 編集後記

こんにちは。僕は今トレペの営業に行ってます。僕には言語障害があり、相手に伝えるのが大変なんで、最初は営業に行きたくありませんでした。1ヶ所2ヶ所と行くうちにだんだん慣れて、行くようになり、注文が取れると、嬉しいですよ。皆さんの職場にも、おれんじ村のトイレトペーパーはいかがでしょう？

注文をお待ちしています。

IT部 E